

中泊町青少年問題協議会が主催する中泊町少年の主張大会が、8月29日(月)に総合文化センターパルナスで行われました。今大会から一般町民にも公開されることとなりました。発表が始まる前、同協議会の会長である小野町長は「大人も大きな気づきを得る機会であり、毎年この日をとても楽しみにしている」とあいさつしました。会場には町内小・中学生とその教員を含め、約320人が8人の発表者の語る思いに耳を傾け、中にはハンカチで目頭を押さえている来場者もいました。発表者の原稿を収録した記録集は、町図書館で閲覧が可能です。

### ■小学校の部

- 中里小6年 **川島 咲** 「桜の木の下で」
- 武田小6年 **佐藤 那砂** 「いつも優しい心を忘れずに」
- 薄市小6年 **新岡 大輝** 「聞こえにくいぼくと友達」
- 小泊小6年 **大西 佑佳** 「あきらめない 前向きな心」

### ■中学校の部

- 中里中1年 **米塚 孔喜** 「絶対かなえてみせる」
- 小泊中1年 **青山 心音** 「差別をなくすために」
- 中里中2年 **三上 海琴** 「いじめを防ぐために大切なこと」
- 小泊中2年 **升田 亮佑** 「初めての一勝」



## 転車台への思いを語る

津鉄の日「まち歩き・転車台見学」

津軽鉄道サポーターズクラブは、毎月22日を津鉄の日と制定し、毎月イベントを開催しています。9月22(木)は、津軽中里駅周辺のまち歩きや転車台見学、ミニフォーラムを開催し、約50人が参加しました。

まち歩きでは、中泊町博物館の学芸員・齋藤淳さんの説明を聞きながら、駅周辺の歴史的に価値のある場所を散策しました。次に、(株)津軽鉄道の館山広一さんの案内のもと、中里駅にある転車台を見学しました。

ミニフォーラムでは、弘前市の地域おこし協力隊の米山竜一さんが、津軽鉄道のこれまでの軌跡と転車台への



思いや実際の活用例を紹介しました。最後にパネルディスカッションを行い、五所川原農林高等学校の生徒や、いいなかどまり会が参加し転車台復活について意見を出し合いました。

